

# 大きいばあちゃんありがとう

埼玉県

川口市立飯仲小学校五年

岩井 優希

ぼくは、毎年夏休みと春休みに群馬県高崎市のおばあちゃんの家に一週間とまりに行きます。ばあちゃんは、家事や仕事でいそがしくて、大きいじいちゃんは、ねながら野球を観ているので、ぼくは大きいばあちゃんと遊んでいます。高崎に行ける日が決まるとむねがわくわくして、出発の日までの一日が今までよりも長く感じてしまいます。

ぼくの大きいばあちゃんは、ぼくが小さいころからたくさんほめてくれます。何をしてもほめてくれます。だから時々てれくさくなつて、おし入れにかくれてしまいます。するとしばらくしてから、

「優希君は、何か研究でもしているのかねえ、しよう来は科学者になるよお。」

と、おし入れの外から大きいばあちゃんの話し声が聞こえてきます。ぼくは、またはずかしくなるけど、なぜかむねが温かくなります。

「いつ出ようかなあ。」

と、おし入れから出るタイミングをニヤニヤして考えています。

大きいばあちゃんは、テレビで悪い事をした人のニュースが流れると、

「悪いことをしようとしても、お天道様がちやんと見ているんだあ。だから優希君は、いい事をしていなくちゃだめなんだよお。」と、言っています。お天道様は自分の心の中にもいて、良い行いも

悪い行いも、必ず自分だけは自分を見ている事を教えてくれます。

ぼくは、小さいころからこの話が大好きです。バレないからと人の物をぬすんだり、人をいじめている人はきつと大きいばあちゃんのようにやさしい人にめぐり会つていらないのだと思います。

ぼくは大きいばあちゃんに、物を買つてあげられないし、ご飯も作つてあげられません。でも、大きいばあちゃんは、

「優希君がいてくれるだけで幸せなんだよお。」  
と言つてくれます。ぼくも同じ気持ちでおばあちゃんに会えるだけで幸せです。最近大きいばあちゃんは、

「おばあちゃんは、何も世間様の役に立っていないのに、ご飯を食べさせてもらつて申し訳ないねえ。」

と言います。そんな時ぼくは、自分の気持ちを上手に言えなくてだまつてしまいます。本当は、

「大きいばあちゃんがいるだけで幸せなんだ。ありがとう。」

と伝えたいのに、はずかしくて勇気が出ません。

これからもぼくは、お天道様が見ている事を絶対にわすれないで、苦手な事にしようせんしていけると思っています。大きいばあちゃんからいつも

「優希君がいるだけでありがとうだねえ。」  
と、がんばれる勇気をもたらしているからです。